

シアターピース

遠野遠音

とおのとおね

柳田国男『遠野物語』および東北民謡によるno.i106

合唱団エトワージュ 第32回 定期演奏会

2016年9月19日(月・祝)

開場/17:30 開演/18:00

小金井 宮地楽器ホール
(小金井市民交流センター)

JR中央線 武蔵小金井駅 南口徒歩1分
入場無料 ※チケットがなくても入場できます。

大ホール

作曲 柴田南雄

指揮 秋島光一

渡邊卓磨

演出 平岩佐和子

PROGRAM

LA MESSE DE NOSTRE DAME より

作曲 Guillaume de Machaut

混声合唱のための4つのモテット

聞こえるか

作詩 谷川俊太郎 作曲 寺嶋陸也

日本民俗学のパイオニア、柳田国男の『遠野物語』が、語り継がれる東北の民謡が、

柴田南雄の手によりシアターピースとしてよみがえる。

東北は岩手を舞台に

郷土の祭礼を紐解くとき、「祭り」がここに繰り広げられる。

もう、祭りへの憧れは、とまらない。

32th REGULAR CONCERT

遠野遠音

とおのとおね



指揮 秋島光一

広島県出身。武蔵野音楽大学声楽科卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。在学中、安宅賞受賞。声楽を神原陸男氏、吉岡巖氏、山田実氏に、また指揮を田中信昭氏、松尾葉子女史に師事。現在、合唱団エトワユ、駒澤大学合唱団、ゲリラ・ヴォーカル・アンサンブル・トレリコの指揮者。また、声楽家としても活躍中であり、在籍中の東京混声合唱団では理事を務める。

指揮 渡邊卓磨

声楽を秋島光一氏に師事。エトワユとの親交も厚い駒澤大学合唱団出身。指揮法は独学であるが、大学で学生指揮者を経験し、その後、合唱団はくなんの指揮者となる。また、現在自身の所属する合唱団エトワユ、水野家の各団にて団内指揮者を務める。



演出 平岩佐和子

東京藝術大学音楽学部声楽科卒、同大学院修士課程修了。柴田南雄作品シアターピースの演出は、「宇宙について」'97、「石二聞ク」'99、「人間について」'01、「人間と死」'02、「歌垣」'03、「往生絵巻」'11（駒澤大学合唱団）。エトワユに演出で関わるのは今回で3作品目（リコーダーを含めると4作品目）となる。

1984年に、指揮者・秋島光一の母校でもある都立清瀬高校コーラス部の卒業生を中心に発足した。以来、ルネサンス時代の宗教作品から、作曲家への委嘱作品まで幅広いプログラムに意欲的に取り組んできた。創立以来の定期演奏会は、本年で32回を数える。また他団体との交流も積極的で、横浜室内アンサンブルとは過去3回のジョイントコンサートを、駒澤大学合唱団（指揮者・秋島光一）とは1999年以来、18年連続でジョイントコンサートを行っている。他にも2004年「第15回創る会～委嘱合唱作品初演演奏会」（東京混声合唱団音楽監督・田中信昭指揮）、2006年「現代音楽の領域～合唱ワークショップ・コンサート」への参加などがある。現在、団員数は30名ほど。20代～50代で職業もさまざま。秋島光一を中心に、ロマンとリアリズムの追求に励んでいる。

合唱団エトワユ



委嘱作品初演歴

- 1986年「三つの盆踊り歌」
作曲/飯島俊成
- 1987年「オレンジの木かげ」
作詩/フェデリコ・ガルシア＝ロルカ 訳/長谷川四郎 作曲/寺嶋陸也
- 1988年「のはらうた」
作詩/工藤直子 作曲/なかにしあかね
- 1989年「牛の問題」
作詩/アルキメデス 訳/三田博雄 作曲/大阪洋史
- 1992年合唱劇「カイロ団長」
作詩/宮沢賢治 作曲/寺嶋陸也
- 1994年合唱劇「ヘルムのあんぼん譚」
原作/アイザック・B・シンガー 訳/関憲治 作曲/寺嶋陸也
- 1999年「兎が自ら歌った謡」
作詩/知里幸恵 作曲/寺嶋陸也
- 2004年「異郷から」
作詩/リチャード・ンティル、アドニス・トーフー 訳/木島始 作曲/寺嶋陸也
- 2008年混声合唱とピアノのための「おもしろ・想（うむ）い」
作曲/寺嶋陸也
- 2011年「オレンジの木かげ 第2集」
作詩/フェデリコ・ガルシア＝ロルカ 訳/長谷川四郎 作曲/寺嶋陸也

INFO



chorusetoile.web.fc2.com



合唱団エトワユ



@etoadm



※本公演は未就学児の入場をご遠慮いただいております。
※ホールには駐車場がございませんので、
近隣のコインパーキングをご利用ください。



etoadm@hotmail.co.jp